

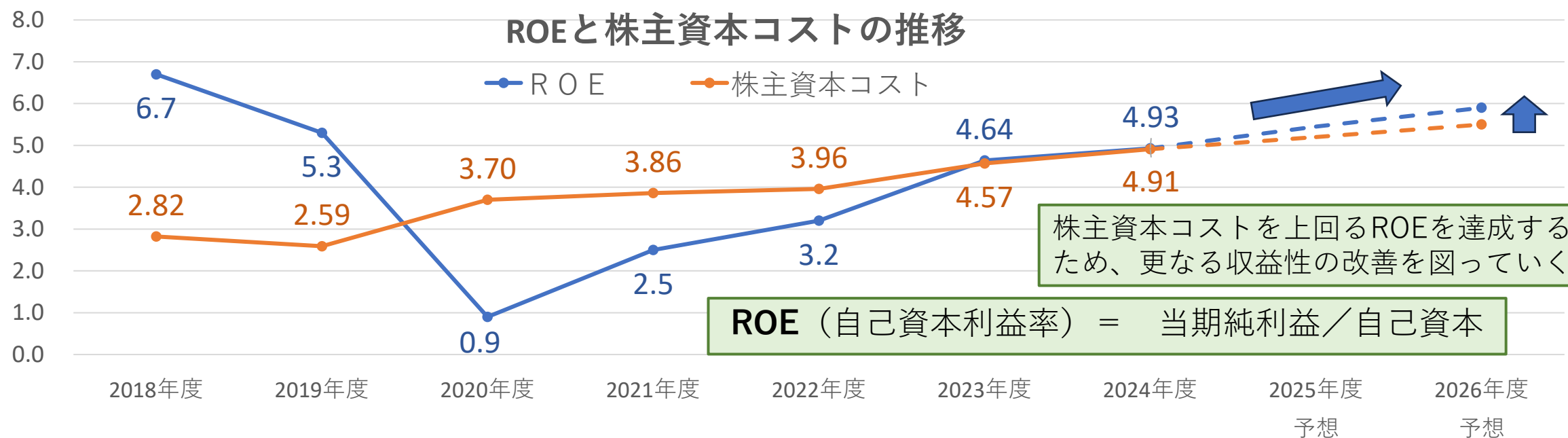
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

1. 資本コストと資本収益性の現状

〔当社の株主資本コストとROEの現状〕

株主資本コスト(※)は、リスクフリーレート（長期国債利回り）が上昇基調であることから、引き続き上昇すると想定（橙色点線）されます。そのため、今後はさらなる収益性の改善等により、株主資本コストを上回るROE（青色点線）を目標とし、エクイティ・スプレッドを高めてまいります。

※当社では株主資本コストの算出について、CAPM（資本資産価格モデル）を使用



CAPMによる株主資本コストの算出方法〔2024年度〕

リスクフリーレート
1.485%

+

リスクプレミアム
5.435%

×

β（価格変動率）
0.630

=

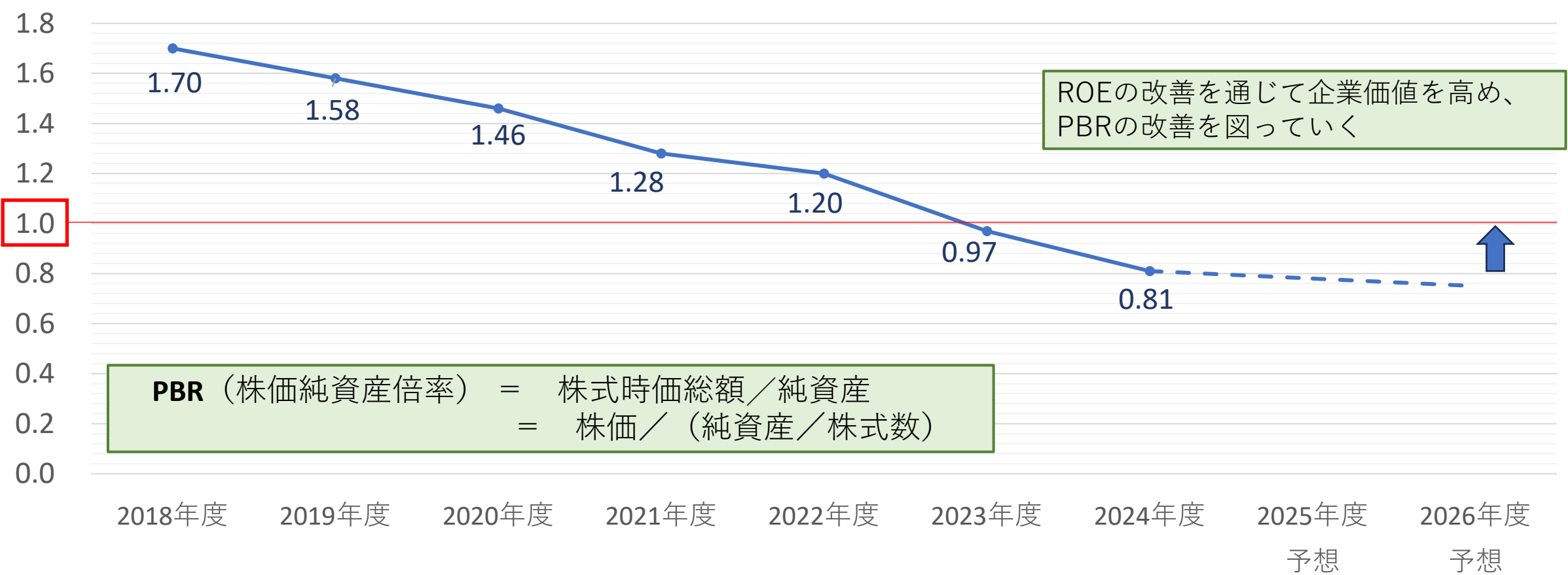
株主資本コスト
4.91%

2. 株価に対する市場評価の現状

〔当社のPBRの実績と予想〕

2025年度以降の当社のPBRを2025年3月末の株価を用いた株式時価総額で算出すると、純資産の増加に伴って低下していくことが想定（青点線）されます。今後はさらに収益性を高め、企業価値を向上させることによりPBRの改善を図ってまいります。

PBRの実績と予想



3. 改善に向けた取組について①

当社グループにおいては、グループの核となる鉄道事業に関わる事業用資産への維持更新投資のウェイトが高く、その結果、資産効率の低下や有利子負債の増加を伴う傾向にあります。今後も次世代に向けた鉄道施設・設備への更新投資は必要不可欠となります。

このような事業特性を踏まえながら資本収益性を向上させるため、ROEを細分化した「収益性」、「資産効率」、「財務レバレッジ」について対応策を講じることによりROEの改善に努め、それにより企業価値を高め、株価の指標であるPBRの改善にも繋げてまいります。

(1) ROEの改善に向けた取組

・ ROE（自己資本利益率）＝ 当期純利益／自己資本

ROEを細分化すると以下のとおり

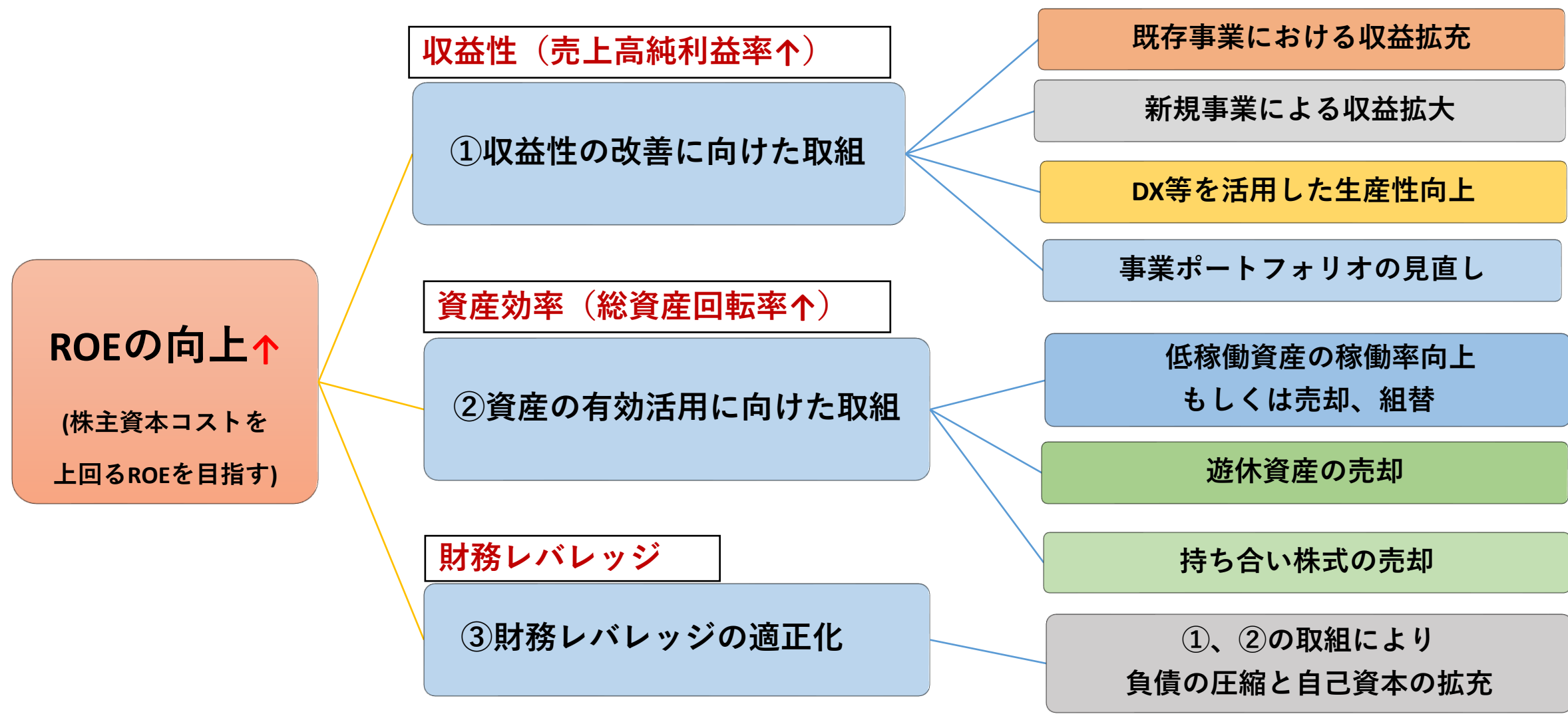
$$\begin{aligned} \text{ROE} &= (\text{売上高純利益率}) \times (\text{総資産回転率}) \times (\text{財務レバレッジ}) \\ &= \frac{\text{当期純利益 } 1,150}{\text{売上高 } 22,131} \times \frac{\text{売上高 } 22,131}{\text{総資産 } 89,076} \times \frac{\text{総資産 } 89,076}{\text{自己資本 } 23,670} \end{aligned}$$

 (収益性) 5.20%	 (資産効率) 0.25倍	 (財務レバレッジ) 3.76倍
--	---	--

※数値は2025年3月期決算より

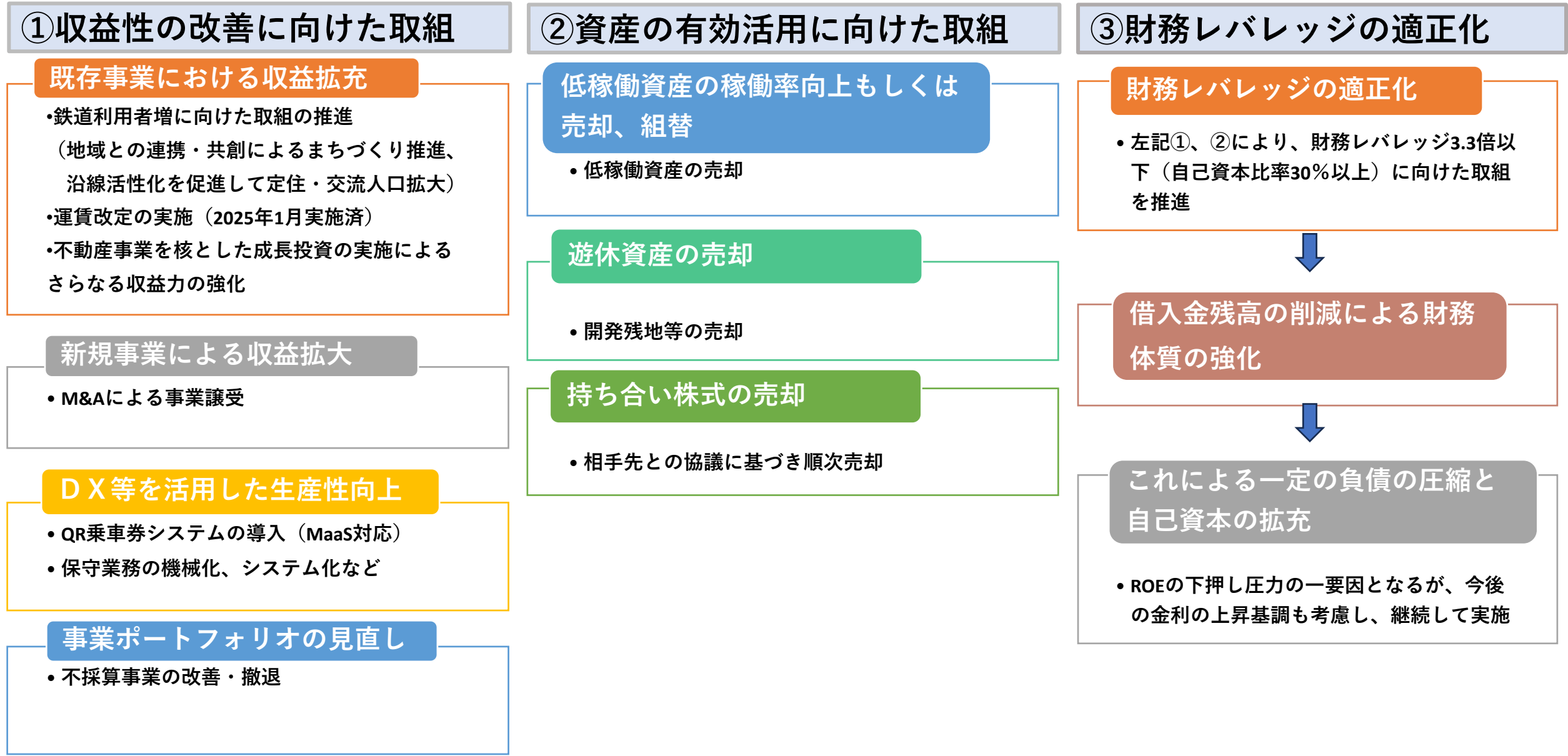
3. 改善に向けた取組について②

(1) ROEの改善に向けた取組



3. 改善に向けた取組について③

(1) ROEの改善に向けた取組



3. 改善に向けた取組について④

「事業資産の維持更新投資」・「成長投資」・「人的資本投資」のバランスを考慮しつつ、①収益性の改善に向けた取組、②資産の有効活用に向けた取組、③財務レバレッジの適正化に取り組みながら、株主還元策についても検討を進めてまいります。

(2) 株主還元策の拡充

配当政策

- ・ 安定した配当を継続的に行うことを基本方針
- ・ 内部留保資金については、持続的な成長のための投資と、鉄道事業における安全対策投資に充当

株主還元策の拡充

- ・ 純資産配当率(連結) 1%を目指して安定した配当を継続的に実施
【参考】 2025年3月期末配当20円/年⇒約0.7%〔純資産配当率(連結)〕
2025年3月期末配当20円/年⇒約15%〔配当性向(連結)〕
- ・ 財務の健全性や資本効率等を考慮して機動的に自己株取得を実施